愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	発達心理学（幼・小）		
担当者(Instructors)	堀 篤実	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本講義は、幼児及び児童の心身の発達の過程の理解と発達段階における心理的特性を踏まえた指導に必要な知識と技能の修得を目的とする。発達に関わる心理学の基礎や教育・保育実践にかかわる心理学の知識を学ぶ。また、人との相互作用を通して子どもが発達していくことを具体的に理解する。生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について学び、教育及び保育との関連について理解を深める。なお授業の到達目標は以下の通りとする。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式を中心に、授業の内容に応じて課題のディスカッション、グループワークを取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション、授業概要の説明	発達心理学という学問やこの授業で扱う内容について説明する。	□
第2回	胎児、新生児の可能性と心の世界	胎児、新生児の可能性について学ぶとともにこの時期の心の世界についての理解を深める。	□
第3回	初期経験の意味、一貫性と変化性	人間の発達の特殊性について学び、発達という変化のメカニズムについて理解する。	□
第4回	親子関係から見る人間関係	赤ちゃんの泣きやほほえみの発達を通して、情緒や感情の発達の理解を深める。	□
第5回	愛着の形成・発達	安心・安全装置としての愛着の発達と社会的ネットワークの形成について学習する。	□
第6回	運動機能の発達	運動機能の発達の特徴として頭部から尾部へ、中心部から周辺部へという流れを理解する。	□
第7回	言語の発達	ことばを獲得する道筋や乳幼児期のことばの発達における特徴を理解する。	□
第8回	自己認識の広がり	自分の人生を導く指針としての「自己」形成とアイデンティティの獲得について学習する。	□
第9回	認知の発達	他者の心を知る「心の理論」の発達について学習し、他者の心の理解や認知について学習する。	□
第10回	社会性の発達	他者から情報と力を引き出す赤ちゃんの特徴として、共同注視や社会的参照について学習する。	□
第11回	生得的気質と性格の発達	性格の核となる気質とその後の環境等により作られる性格、自ら作り出す性格の部分について学習する。	□
第12回	心身の発達と内的及び外的要因の相互作用	心身の発達に影響を及ぼす内的要因及び外的要因について理解し個々の発達における影響を学習する。	□
第13回	文化による子ども観及び発達課題の違い	親のしつけや園・学校の教育の働きを考えることにより、社会化としての発達について理解する。	□
第14回	養護性の発達と親の人格発達	「親になる」ことと「親をする」ことについて考え、養護性の発達と親の人格発達について理解する。	□
第15回	学習の振り返りとまとめ	授業で学習したことの振り返りとまとめを実施する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

各回の内容について、事前に講義内で示されたキーワードについて調べ、その内容を理解する（2時間程度）。授業前までに次週で扱うテー

マの中にある言葉について調べてくる。授業後は配布資料を参考に授業内容を振り返り、自分で調べてきたことと照らし合わせてキーワードついてまとめる（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回、講義後に振り返りを提出する。それは採点され、翌週フィードバックし、全体で共有したほうが良い内容については次回授業の冒頭で紹介する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	幼児及び児童の心身の発達過程及び特徴を理解している。乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達についてその具体的な内容を理解している。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	幼児及び児童の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を踏まえ、発達の概念を理解し、教育・保育の現場に起きている問題に応用することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎授業後、振り返りの課題、またはレポートを提出する（40%）。
授業（グループワーク含む）への参加態度、意欲などを総合的に判断する（10%）
授業の振り返りとまとめの課題として試験を実施する（50%）。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて資料を配布します。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	特になし	
2		
3		
4		
5		